

いわき都市圏総合都市交通推進協議会 御中

持続可能な路線バス運行に向けて

20260827

はじめに

平素より弊社路線バスの運行に格別のご支援とご理解を賜り、心より御礼申し上げます。弊社は昭和18年の創業以来、83年間にわたり地域の皆様の移動手段として路線バスを運行してまいりました。

令和7年11月12日に開催されました本協議会において弊社の運転手不足等の現状について説明させていただきましたが、本日は、その後の主な取り組み内容と、路線バス事業経営の現状を改めてご報告し、今後どのように持続可能な路線バス事業を実現していくかをご説明させていただきます。

路線バスの状況

乗務員不足の状況

- 労働時間が長く、他社に比べ低い給与水準である。
- 人材確保が進まないうえに、高齢化が進み定年等による退職が増えている。
- 2024年問題（改善基準告示の変更）により拘束時間の短縮や休息时间（インターバル）の確保をしなければならず、各路線を維持するための必要な乗務員数が増えた。

- 正規社員の他に、高齢者の時短労働や時給制女性ドライバーの採用といった柔軟な働き方に対応した募集活動をするなど、人材確保の強化に取り組んできたが、依然として十分な人員を確保できていない。
- 抜本的な解決には給与面や労働環境等の労働条件の改善が必要

路線バス存続の危機

➤ 経営基盤の強化が必須

赤字が常態化している路線

- 路線全体の収支率は約60%
- 燃料費等諸物価の高騰による諸経費の増加
- 国県市の支援を入れても毎年多額の赤字が発生（一部路線の補助政策の見直しが必要）
- 人口減少・自家用車の普及によるバス利用者の減少

内部補助の機能不全

- 主に路線バス、高速バス、観光（貸切）バスの3つの事業で運営
- 一般路線バス事業の赤字を高速バス事業等の利益で補填してきたが、コロナ禍の追い打ちにより、人員の流出やバスの利用減により会社全体の赤字が増加

乗務員の採用状況について

- 令和7年度10月～採用活動を強化。一定の成果は見えるものの、目標人員数138名には至っていない状況。離職防止の打ち手が必須（＝労働条件の改善）。先行投資として出遅れていた賃上げを実施している状況です。



路線バスにおける乗務員の必要数について

(括弧内の数値は前年同月)	平日	土曜	日祝	平休
在籍運転者数	123 (130)	123 (130)	123 (130)	123 (130)
1日当たり必要数（高速バス含む）	95 (110)	50 (54)	47 (51)	94 (109)

※「在籍運転者数」には正規乗務員の他、嘱託契約による時短勤務者、時給制女性ドライバーなど異なる勤務条件の人員が含まれています。

※年次有給休暇取得日数、私欠等は除外しており、一方で公休・祝日出勤等も除外して試算しております。
R7年6月度時点26人不足より、不足数は改善傾向、ただし、高速バス、路線バスの大幅な減便を実施し、交番数を削減した影響が大きい。

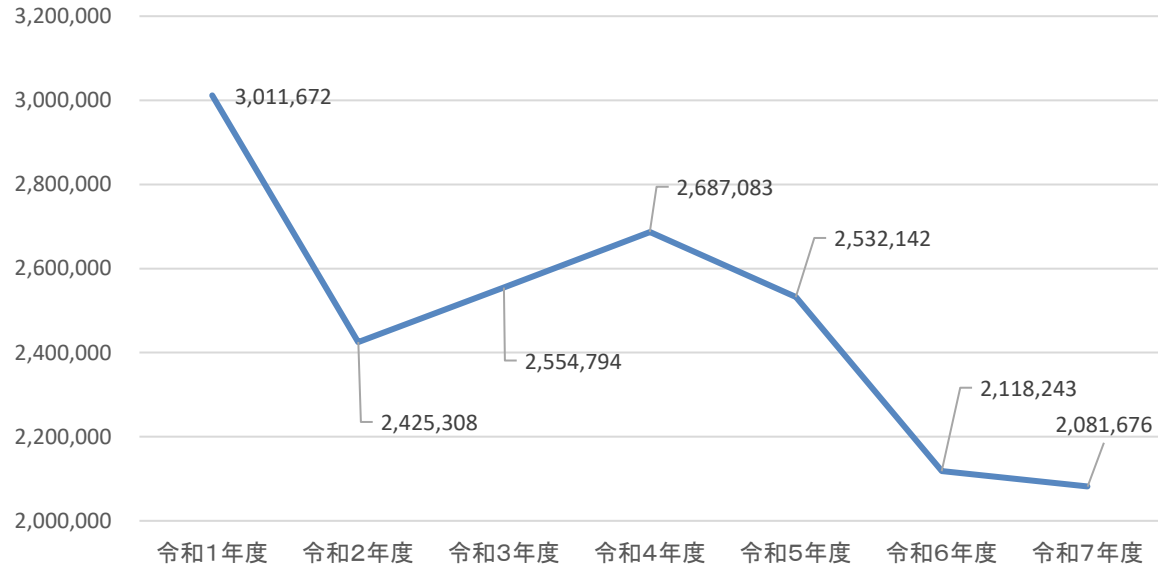
現在の不足人員数は、約15人※

所定休日：週休2日制
所定労働日数/月、労働時間/日：23日/月、8時間/日
対象算定月：6月度（5/21-6/20） 31日間

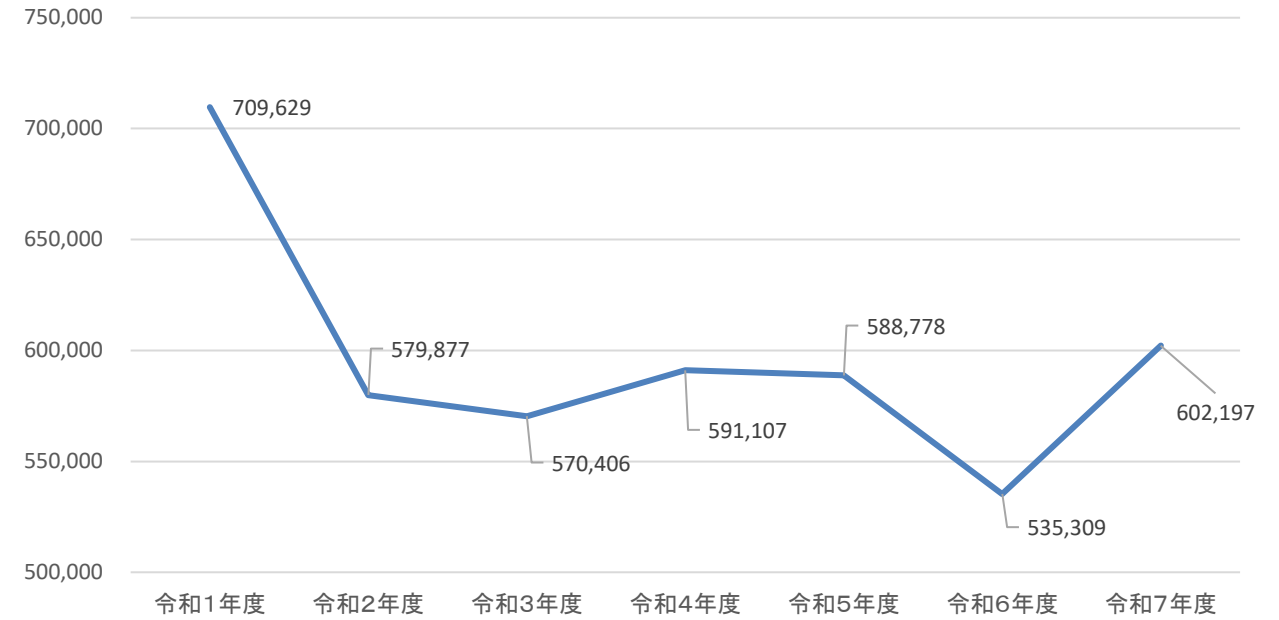
当該期間は祝日がなく、学校等も開校されている状況となるため、年間を通じて弊社乗合バス事業が最も稼働する月の一つとなります。

減少傾向にある輸送人員・運送収入の推移

輸送人員の推移（一般路線バス、単位：人）



運送収入の推移（一般路線バス、単位：千円）



**コロナ禍以降の市内の人口減少・大幅な減便の影響が大きい。
令和7年度の運賃収入が増加しているのは、運賃値上げが主な要因と分析。**

路線バスは必要ですか？（路線バスの大切さ）

地域住民の「足」としての不可欠性

- 気軽に自動車を利用できない人口は約 2 ～ 3 割存在（高齢者、免許を持たない学生・子どもたちにとって、バスは医療や教育にアクセスするための命綱）
- 家族送迎が多くなっていますが、**送迎側の負担**も大きく、**経済活動の機会（就労、社会生活など）も損失**
- バスの利便性が高まれば、**市への転入増加・転出減少**に貢献できる

多面的な効果を有する社会インフラ

- 教育、医療のほか、あらゆる経済活動を支えている**裾野が広い社会インフラ**
- 誰もが一定の料金で移動できる公共交通は、**都市の魅力**の一つ（住みやすい街の指標）
- 自家用車に比べ、道路や駐車スペースなどが小さくてすみ、また環境への負荷も小さく、**効率性が高い**
- 路線バスが人々の移動を支えることで、**行政コストの軽減**につながる（代替手段の確保が抑えられる）
- 行政コストの軽減は、**公共交通を使わない人にとってもメリット**がある

10～19才 約2.5万人(人口の約8.5%)
75才～ 約5.6万人(人口の約19.0%)

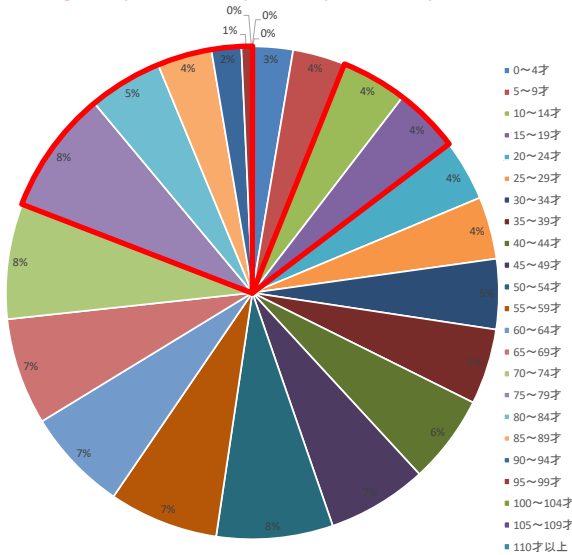


図 年齢5歳階級別人口割合(R8.8)

【いわきの公共交通のあるべき姿】

都市計画等で定める『ネットワーク型コンパクトシティIwaki』を実現するため、利便性の高い**“くらしの足・おでかけの足”**としての公共交通の整備

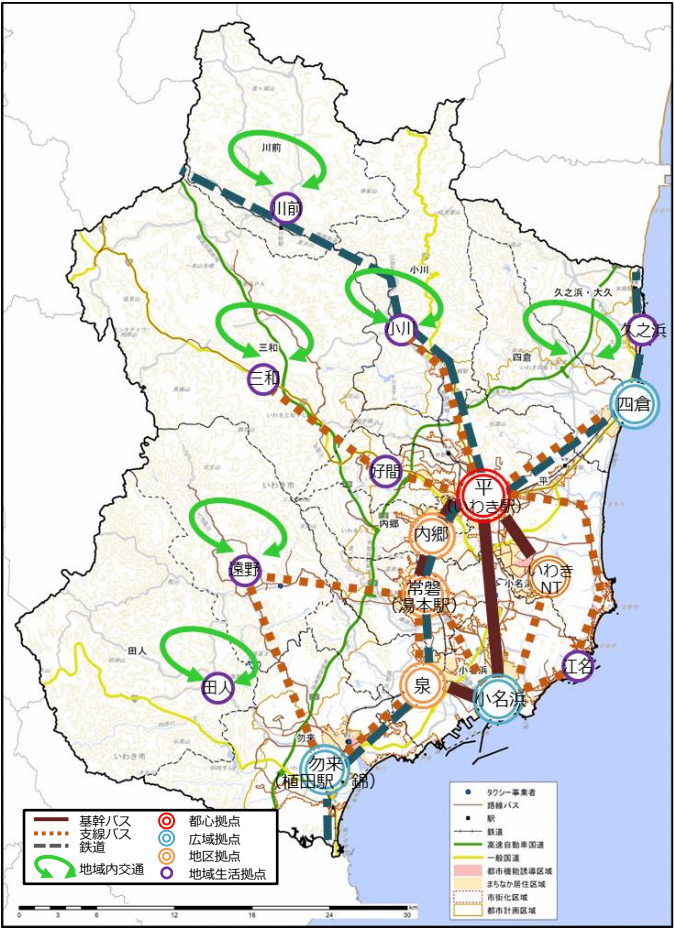


図 公共交通ネットワーク方針図

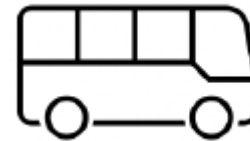
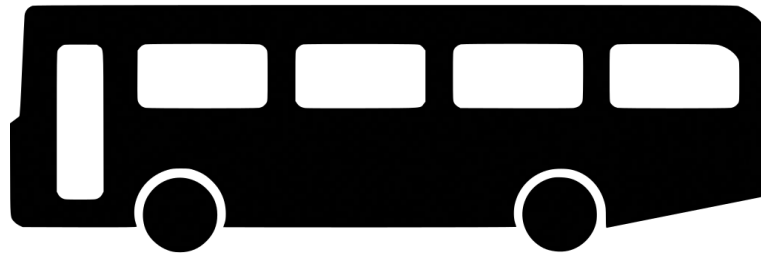
持続可能な路線バスを運行するための基本的な考え方

安全・安心・便利な路線バスの展開・維持

利便性の向上（お客様の確保）
ニーズの掘り起し（お客様のご利用
促進）

収益性の確保（持続可能な運賃設定）
運行の効率化（ダイヤ見直し等）

経営基盤の強化（担い手確保・適
正な行政支援）



弊社の具体的な戦略①

収益機会増の取組

大規模イベント等と連携した運行

- ・ 運賃分を興行主負担とする形で無料バス等の運行を検討。
- ・ 交通対策が必要な**興行主**、収益が確保できる**バス事業者**、そして**利用者の3方良しの関係を構築**。

堅実なニーズの掘り起し

- ・ **実は知らないだけで、買物や通院に便利なバスが運行されている団地等をターゲットに、住民へ広報周知。**
- ・ 移動の仕方の事例を記載した回覧板の配布や、住民への乗りかた教室など、**現実的で確実に伝わる活動を実施。**

回送便（空車キロ）の営業運行化

- ・ 無駄に走行している回送ルート・時間帯と、人口集積等を踏まえ、**使われる「新系統・新路線」を立案。**
- ・ **車両と運転手を増やさずにサービスを提供し、収益の確保・経営改善を図る。**

弊社の具体的な戦略②

営業所再編の検討

回送の効率化

- 現在は、各車が鹿島町上蔵持の中央営業所を起点に、回送・運行しています。
- **回送の効率化**を図るため、**小名浜、平上荒川、上遠野への営業所の設置及び遠隔点呼の導入・運用について、検討を進めていきます。**
- 回送の効率化により、既存の労働時間内で増便等を行い、路線バスの利用機会を推進するとともに、燃料費を削減し、持続可能な路線バス事業を目指します。
- 詳細は次頁のマップをご覧ください。

（効率化の例）

中央営業所を上荒川営業所（仮）発とし～いわき駅まで1便あたり11.3 k mから3.1 k mまで短縮（時間的に20分短縮）

中央営業所を小名浜営業所（仮）発とし～小名浜車庫（小名浜地区始発停留所）6.9 k mから0 k mまで短縮（時間的に15分短縮）

湯本営業所を上遠野営業所（仮）発とし～上遠野車庫（遠野地区停留所最西端根岸前）15.1kmから0kmまで短縮（時間的に30分短縮）

弊社の具体的な戦略③

運行の効率化と持続可能な運賃設定

運行の効率化に向けた路線・ダイヤ再編

- ・ ネットワーク型コンパクトシティIwakiに適合できるよう、鉄道ダイヤと乗り換えがスムーズになるよう、利便性を追求した路線バスを設計します。
- ・ **利用者が少なく、また今後も利用が見込めない路線**については、**地域の方々と対話**を行いながら、**適宜適切にダイヤの統合や減便**などを進め、運行の効率化を図ります。
- ・ 弊社では、次頁地図にある現行2営業所、大きくは南部ブロック（湯本営業所発着）と統合ブロック（いわき中央営業所発着）に分けて運行を管理していますが、**限られた乗務員の体制や車両**を踏まえ、**南部エリアにおいて大胆な路線再編の検討**を進めていきます。

持続可能な運賃設定

- ・ これまでも、運行コストの上昇といった経営環境の変化に対応し運賃改定を行ってきましたが、**社会的・経済的な妥当性を十分に検証**しながら、**適宜、持続可能な運賃改定**に取り組んでいきます。

→ **地域の皆様との対話を進めながら、協議会で報告・協議させていただきます。**

持続可能な路線バスを運行するために

安全・安心・便利な路線バスの展開・維持

利便性の向上（お客様の確保）
ニーズの掘り起し（お客様のご利用
促進）

収益性の確保（持続可能な運賃設定）
運行の効率化（ダイヤ見直し等）

経営基盤の強化（担い手確保・適
正な行政支援）

路線バスの担い手である乗務員の労働条件の改善を第一に掲げ、賃上げ及び改善基準に適した労働時間の整備に努め、赤字を計上しながらもなんとか先行投資を続けています。また、新しい働き方（時短勤務等）を設計し、少しずつですが採用状況も明るい兆しが見えてきております。

本協議会の皆様、いわき市様と共に地域の公共交通を発展させ、「ネットワーク型コンパクトシティIwaki」実現のため、いわき市での暮らしをより魅力的にし、移住促進等へも寄与できるよう事業を邁進していきますので、特段のご高配を賜りたく、切に要望申し上げます。

E.O.F